

# 令和5年度南信州地域計画の取組実績について

～皆でつなぐ 南信州農業の新たな時代～

## 資料 1

### ■ 達成指標

| 重点取組 | 達成指標                       | 現状<br>(R3年) | 計画<br>(R5年) | 実績<br>(R5年)      | 目標年<br>(R9年) |
|------|----------------------------|-------------|-------------|------------------|--------------|
| 1    | 新規就農者数(49歳以下)              | 41人/年       | 30人/年       | 34人/年            | 30人/年        |
|      | Iターン就農者数                   | 8人/年        | 8人/年        | 16人/年            | 8人/年         |
| 2    | 日本なしの早期多収省力栽培技術導入面積        | 4.6ha       | 6ha         | 6.1ha            | 10ha         |
|      | 担い手への市田柿集積面積(農地中間管理事業)     | 5.7ha/年     | 6ha/年       | 7.4ha/年          | 6ha/年        |
| 3    | きゅうり・アスパラガス施設面積            | 36ha        | 37.5ha      | 38.2ha           | 39.5ha       |
|      | 農業用ドローンによる防除面積             | 21ha        | 50ha        | 214ha            | 70ha         |
| 4    | 基幹的な農業水利施設の整備箇所数(計画期間内整備量) | —           | 1か所         | 0か所              | 5か所          |
|      | 防災重点農業用ため池の耐震性診断実施箇所数      | 9か所         | 15か所        | 17か所             | 31か所         |
| 5    | 都市農村交流人口                   | 38,882人     | 134,000人    | 76,676人<br>(R4年) | 200,000人     |
| 6    | 学校給食における県産食材の利用割合(品目ベース)   | 53%         | 53.6%       | 46.5%            | 55%          |
|      | 学校と連携した地域農産物に係る情報提供の回数     | —           | 6回/年        | 6回/年             | 6回/年         |

### 重点取組1：皆が憧れる農業の担い手の確保・育成

- 県、市町村、JA が連携し、地域の特徴を踏まえた就農作戦会議や相談活動による担い手の確保
  - ・ 農業の魅力発見セミナーの開催（2回）や農業体験研修（農大生4人）を実施
  - ・ 市町村・JA と連携した相談活動（41件）及び就農作戦会議の開催（全体1回、2地域各1回）
  - ・ 就農希望者の適切な研修への誘導（5人）及び新規就農里親研修生の指導（月1回）
  - ・ 新規就農者育成総合対策により、就農への準備を支援（就農準備資金6人）
- 研修事業及び経営発展支援等の充実による地域農業をリードする担い手の育成強化
  - ・ 就農5年以内の者の経営管理能力の向上を目的としたスキルアップセミナーを開催（3回）
  - ・ 新規就農者育成総合対策により、経営開始時に必要な資金・機械導入等を支援（10市町村、資金63件、機械等導入13件）
- 中核的経営体の資質向上及び多様な担い手の支援
  - ・ 専門家を交えた個別伴走支援活動（10件）及び経営発展のための集合研修の開催（1回）
  - ・ 4S（整理、整頓、清掃、清潔）の実践、作業工程の見直しといった「カイゼン」の手法を活用する経営体の実践指導（1件）
  - ・ 他産業従事後農業経営を開始する者等を対象にした帰農塾の開催（基礎講座5回、専門講座各4～6回（柿、りんご、なし、きゅうり、アスパラガス、ミニ・中玉トマト））

- ・農業参入を目指す食品企業に対する農業経営改善計画の作成など基盤確立に向けた支援（1社、11回）

### ○ マッチング機会の創出や農福連携等による多様な支え手の確保を推進

- ・労力不足を課題とする農業法人等へマッチング相談会や人材確保等に関する研修会への参加を誘導（1回）
- ・農家の労力不足解消を目的とした農福連携未経験の農家を対象としたお試しノウフクの実施（1事例）、農福連携推進研修会の開催（1回）
- ・市町村やJA等が行う労力補完の取組を推進するため、参加者の技術習得を支援（柿加工1回、果樹せん定1回）



【お試しノウフク（栗の収穫）】

## 重点取組2：新技術や新品種の拡大による競争力の強い果樹産地づくり

### ○ 日本なし産地再生プロジェクトにより、JA等関係機関と連携し、担い手確保、新たな技術の導入及び園地の整備等に取り組む、稼げる産地の再構築を推進

- ・なし樹体ジョイント仕立て栽培の早期成園化・優良園地育成のため、重点農家の巡回指導（12ほ場）及び検討会等の開催（4回）
- ・なしの白紋羽病の簡易診断法の実施（20ほ場）と罹病園の防除対策の実施（講習会1回、実演会3回）
- ・南農ナシ6号「天空のしずく（仮）」等品種検討会の開催（1回）
- ・モデルとなるミニ団地整備の検討会（2回）及び苗木生産の検討会（3回）の開催



【なしジョイント仕立て研修会】

### ○ りんご高密度植栽培など省力化・生産性向上の推進と県オリジナル品種の戦略的拡大

- ・りんご高密度植栽培など省力化栽培のための耕作条件改善や樹園地の再整備等に関するプロジェクト会議の開催（打ち合わせ11回）
- ・「シナノリップ」ほ場巡回指導（4ほ場）及び熟度調査の実施（7月中旬～8月上旬）

### ○ 市田柿の円滑な樹園地継承と「市田柿+α」複合経営の推進

- ・市田柿ブランド推進協議会等と連携し、生産量確保のための樹園地継承検討会の開催（1回）、栽培・加工技術研修会（2回）、販売反省会の開催（1回）、衛生管理マニュアルの見直し等に対する支援（3回）
- ・市町村基本構想への「市田柿+きゅうり」の経営類型の位置づけ（9市町村）と新規就農希望者及び里親研修生への複合経営モデルの提案（8人）
- ・早採りによる「もどり」の発生防止のため、熟度調査（9月下旬～11月上旬）に基づく適期収穫の徹底
- ・南信農業試験場と連携した摘蕾技術の検討（1か所）

### ○ 「シャインマスカット」や「ナガノパープル」、「クイーンルージュ®」等の無核大粒品種の生産拡大によるぶどうの産地化

- ・早期成園化に向けた幼木管理指導会の開催（3回）
- ・新品種「クイーンルージュ®」の生産拡大のため、モデルほ場の積算気温調査の実施（3ほ場）、熟度調査の実施（1ほ場）、適期収穫検討会の開催（1回）

## 重点取組3：南信州らしさを生かした複合産地の構築

### ○ きゅうり・アスパラガス・白ねぎの生産安定

- ・露地きゅうりを対象に発病調査を通じた防除方法カイゼン提案と施設化の推進（ほ場発病調査5か所、防除提案3回及び施設化推進提案2回）
- ・露地及び雨よけアスパラガス栽培ほ場の発病調査を通じた施設化の推進（4か所）
- ・白ねぎ7月出荷体系の検討（実証ほ設置1か所）
- ・水田地帯への野菜導入時の排水対策（モミサブロー、カットプレーカー）の検討（きゅうり等9か所）

### ○ ダリア等主力品目花き生産への支援

- ・ダリアにおける土壌水分計を活用した生育不良の原因把握及び排水対策の提案（9か所）
- ・ホオズキの着色不良や草姿バランス不良の解消に向けた肥培管理の検討（実証ほ1か所）
- ・カーネーションにおけるハダニ類の殺ダニ剤抵抗性の検定（5ほ場）

### ○ きこのロスピン率低減による経営安定や異物混入対策の推進

- ・きこの経営改善推進事業による経営安定に向けた支援（6経営体）
- ・異物混入の解消に向けたキノコバエ類の発生調査及びカイゼン提案（2か所）

### ○ 南信州牛（信州プレミアム牛肉を含む）・銘柄豚などの生産拡大及び家畜防疫対策の徹底

- ・飼料作物周年作付け体系を導入した自給飼料増産調査ほ場の設置（3か所）
- ・飼養衛生管理のレベルアップに向け、巡回指導と農場 HACCP の啓発を継続実施（40戸）
- ・飼養衛生管理基準の周知等による家畜防疫対策の徹底（肉牛農家90戸、養豚農家13戸、養鶏農家14戸）

### ○ スマート農業技術の導入による省力化や生産性向上の推進

- ・農業用ドローンを利用した水稻の斑点米カメムシ類等の集団防除の取組拡大への支援（3か所）
- ・補助事業を活用したスマート農業機器の導入を支援（ドローン1機、ロボット草刈機7台、ラジコン草刈機1台）
- ・スマート農業機器のお試し導入の推進（水田センサー8か所、環境モニタリングシステム3か所）
- ・スマート農業ミニ講習会の実施（1回）

### ○ 環境への負荷を低減した有機農業等の環境にやさしい農業の推進

- ・信州の環境にやさしい農産物認証取得（新規4件）や環境保全型農業直接支払事業（4町村）に取り組む者への支援
- ・環境保全型農業に取り組む農家への GAP 認証を継続支援（1経営体）
- ・有機農業に取り組む農業者組織活動及び市町村が主体となり行う有機農業産地づくりに係る取組への支援（農業者組織3、国庫事業2市町）
- ・炭素貯留等環境負荷低減対策の推進（無煙炭化器実演会2回、導入4器、モミサブロー実証1か所、綿製ネット実証1か所等）



【無煙炭化器検討会】

### ○ 気候変動に対応した技術の導入及び経営継続のためのリスク対策の推進

- ・施設園芸における暑熱対策の事例収集（ダリア9経営体）及び検討会開催（1回）
- ・リスク軽減の実現のため、講習会及び会議等を活用した収入保険等の加入推進

## 重点取組4：皆でつなぐ豊かな農村

### ○ 地域の話合いにより守るべき農地と担い手を明確化

- ・県の市町村支援チームや専門家派遣により地域計画策定のための地域の話合い及び目標地図の素案づくりを支援（専門家の派遣1回、意見交換会1回）
- ・経営体育成支援事業等を活用し、農業の担い手の経営基盤確立による守るべき農地の集約化を支援（機械等導入、経営開始支援79件）

### ○ 伝統野菜や茶などの豊かな食文化や栽培技術の継承を支援

- ・伝統野菜の固有形質の維持のための採種指導会の開催（2種各1回）
- ・伝統野菜の生産安定のための技術指導の実施（下栗芋、千代ネギ、清内路かぼちゃ、鈴ヶ沢なす、鈴ヶ沢うり、鈴ヶ沢南蛮、下條にんにく、ていざなす、源助蕪菜、志げ子なす）
- ・茶の品質向上のための栽培管理講習会の開催（3回）
- ・茶産地維持のための防除作業の省力化実証試験の実施（1か所）、共進会の実施（1回）

### ○ 集落機能を維持するため、野生鳥獣被害対策などを支援

- ・多獣種を対象とした長野式電気柵（2か所）、及びハクビシンを対象とした電気柵（2か所）の展示ほ場の設置と設置講習会の開催（2回）
- ・鳥獣被害防止総合対策交付金による駆除活動等を支援（4市町村）
- ・中山間地域等直接支払交付金を活用し、農用地保全や新たな加算措置等への取組を推進（14市町村）



【ため池の耐震性診断】

### ○ 農村の多面的機能の維持と活用促進

- ・多面的機能支払交付金を活用し、農地・水路・農道等の保全活動及び補修・補強・更新等の質的向上活動を支援（12市町村）

### ○ 水路など農業用施設の長寿命化、農村地域における防災対策の推進

- ・竜東一貫水路のサイホン補修工事に着手
- ・防災重点農業用ため池の耐震性診断を実施（6か所）

## 重点取組5：リニア新時代 世界に通用する農村交流の体制構築

### ○ つながり人口増加を見据えた直売所の支援、「観光+農業」の推進

- ・南信州観光公社など「観光+農業」の企画運営関係機関との情報交換会の実施（2回）
- ・農産物直売所と農産加工所の連携による魅力向上に向けた改善検討会の実施（5回）
- ・クラインガルテンのリピーター増加に向けた野菜栽培指導の実施（3回）
- ・栽培指導や病虫害発生情報の提供などによる観光農園（果樹類やいちごなど）の適正管理を支援（情報提供15回）

### ○ 伝統野菜、南信州牛など地域食材等を取り入れた「食」を介した交流の促進

- ・伝統野菜フェア等の開催による伝統野菜の食材としての魅力発信・認知度の向上（1回）
- ・南信州地産地消推進協議会による伝統野菜産地見学会等の開催を支援（見学会1回）
- ・地元食材の多様な取引形態の形成から生産者グループの新たな取組による活性化、活動の継続を支援（8回）、管内飲食店グループへのメニューの提案支援（6回）
- ・「もくよういち」に関わる飲食店関係者のニーズに基づく栽培計画作成支援（2回）

### ○ 食品企業等との連携による地域農畜産物の活用を促進

- ・農業参入により原材料りんごの自社生産を計画する食品企業に対する基盤整備や技術習得を支援（6回）
- ・6次産業化総合化事業計画認定事業者へのフォローアップ（1回）及び6次産業化取組希望者へのプランナー派遣（1事業者）

- ・南信州うまいもの商談会への出展の誘導及びFCPシート作成支援（1回）
- ・食品企業等実需者からの要望ニーズ等の情報提供と契約取引を希望する農業者等とのマッチングを支援（5回）
- ・日本なしを使用した菓子等商品開発の支援及びPRの実施（商品化13事業者、17商品）



【なし商品お披露目】

### ○ 市田柿における地理的表示（GI）保護制度の活用や地域農産物の生産工程管理支援による海外ブランド強化と輸出促進

- ・輸出果実（日本なし、りんご）の検疫に係る施設登録申請手続きの支援（1件）、選果技術員の研修及び施設査察への協力（2選果場）、栽培管理の支援
- ・市田柿輸出の補助事業実施後の輸出状況確認（1団体、輸出先国（台湾、香港、シンガポール、マレーシア、タイ、ベトナム、欧州、米国））、地理的表示（GI）保護制度による生産工程管理を支援

## 重点取組6：農や食への理解醸成

- 農業体験会の開催など教育現場や飲食店関係者等との協働による食育・農育の強化
  - ・小中学生を対象とした市田柿の食育事業を実施（2校）
  - ・小学生を対象とした大豆「つぶほまれ」の栽培から加工を通じた食育活動を支援（3校）
  - ・未就学児を持つ母親らを対象とした食育連携組織による大豆や野菜の栽培から調理・加工の体験活動を支援（3回）
  - ・地域内外の住民を対象とした女性農業者組織による大豆の栽培から加工体験イベントの企画運営を支援（7回）
  - ・飲食店関係者等との連携による「食を考える集い」を通じた食育、農育に関する情報を発信（1回）
- エシカル消費を推進するため、地域農畜産物などの利用を促進
  - ・学校給食での伝統野菜など地域農産物の活用促進と食文化の伝承活動を支援（2回）
  - ・教育事務所と連携し、飯田下伊那栄養教諭・学校栄養職員部会へ「信州の伝統野菜データベース」などを活用した地元農産物についての情報を提供（6回）
  - ・みどりの食料システム戦略緊急対策交付金を活用し、市町村が行う有機給食の取組を支援（2市町）
  - ・エシカル消費を推進するため、環境メッセ等のイベントを通じて、消費者が環境に配慮して生産された農産物について理解深める機会を創出（1回）
  - ・農村生活マイスターや農村女性ネットワーク会員を対象とした地域食材を活用したガレット講座の開催（7回）
- 市田柿など地域農畜産物の魅力発信
  - ・市田柿ブランド推進協議会と連携し、県外イベント等での市田柿のリーフレットの配布による情報発信（2回）
  - ・南信州農業振興協議会と連携し、「信州の伝統野菜データベース」の2次元コードを記載したポスターの作成と配布を通じた伝統野菜の情報発信
  - ・南信州地産地消推進協議会と連携し、地域食材を活用した料理コンテストやメニュー開発に関する講演会などの開催を支援